

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

見能林小学校
「学力向上実行プラン」

児童の主体的な学びを展開させるため、直接体験やICTを効果的に活用した学習指導の工夫をし、児童の可能性を最大限に伸長する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 横手 里佳
委員 校長:竹治直樹 教頭:久龍和巳 教務:古川圭三 1学年主任・研修主任:田上晶代
2学年主任:中野善子 3学年主任:横手里佳 4学年主任:横手裕一 5学年主任:近藤佑亮
6学年主任:助岡洋子 特別支援コーディネーター:前川佳世

校長
竹治 直樹

【各校の取組状況の把握について】

- ・学力向上に関する校内研修やアンケートの実施
- ・学年団による話し合い後、文書報告

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して真面目に取り組むことができる。 ●既習の知識・技能を活用する力が十分でない。 ●読書量に差があり、語彙力が十分でない。	・学習準備を整え集中して学習に取り組むことができる。 ・漢字や計算など基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につける。 ・既習の知識・技能を、学習や生活と関連付けて活用できる。 ・図書や新聞を活用し、語彙力を高め正しい言葉で文章を書くことができる。	・朝の活動において曜日を設定し、継続的に漢字・視写・音読・計算など基礎的・基本的な内容の習得を図る。 ・読書の楽しさを児童に体感させ、進んで読書に取り組めるような環境づくりをする。 ・毎週配布される新聞を活用する。 ・タブレット端末の活用について研修を行い、積極的(毎日)に授業等で活用し、児童が日常的に使用できるようにする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○タブレットの活用で思考の共有が効果的に行え、考えを深めることができるようになってきた。 ●話し合い活動などで意見を聞き、自らの考えを深めたり相手に伝えたりする力が十分でない。 ●複数の情報から必要な情報を読み取ることが苦手である。	・自分の考えを整理し、順序立てて話すことができる。 ・考えや思いを適切に文章に表現することができる。 ・相手の話をしっかり聞き、自分の意見をはっきり伝えることができる。 ・語彙を増やすとともに、豊かな表現力をつける。	・児童の思考につながるよう主発問を吟味し、思考の時間を十分に確保するとともに互いの考えを話し合う時間をとる。 ・児童がICTを活用する授業を行い、考えを深めたり意見を交流したりする場面を設ける。 ・個別のニーズに応じたタブレット使用の指導・支援環境を整える。 ・人に伝えることを意識し、声の大きさや発表の仕方を考えさせる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習のルールを守ろうと努力し、落ち着いて取り組んでいる。 ○ICT活用により、児童の学習意欲が高まってきた。 ●指示されたことはできるが、自ら課題を見つけ、解決しようとする力が弱い。	・課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや分かる喜びを感じることができる。 ・自分の考えや意見を進んで発表できる。 ・ICTを意欲的に活用し、探究的に学習に取り組むことができる。	・直接体験やオンライン教材を積極的に活用し、児童が主体的に取り組めるようにする。 ・ICTの活用について、教職員自身が研修を深め意識改革を図る。 ・家庭や地域との連携を生かした授業展開を行う。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

